

小牧駅周辺地区(小牧市)

◆地区の概要◆

事業名:都市再生整備計画事業(都市再構築戦略事業)

計画期間:2015年～2019年(5箇年)

面積:300ha

交付対象事業費:48億4千万円

主な事業:
①新市立図書館の建設、②新市民病院の建設、
③子育て支援施設の整備

◆地区の目標◆ : 小牧の玄関にふさわしい魅力あるまちづくり

◆地区の説明◆

・市の玄関口である名鉄小牧駅を中心とした中心市街地と住宅市街地で形成。

・名鉄小牧駅周辺から小牧山にかけてを中心市街地ゾーンとして位置づけ、市役所をはじめ市民病院、市立図書館、市民会館、再開発ビル「ラピオ」など主要な公共施設や商業施設が立地する。

・市のシンボルである小牧山では、小牧市の歴史や文化が実感でき、貴重な緑地空間として市民に親しまれている。

×自動車への依存が高く、都市機能のスプロール化(無秩序的な拡大)が進行。
⇒中心市街地では空洞化が誘発され、都市としての魅力が低下。

×小牧駅周辺は市の玄関口であるにも関わらず、駅西口から再開発ビルまでは暫定的に駐車場として利用されており、低未利用地の解消が図られていない。

◆地区のアピールポイント◆

- ・市の中心市街地に位置することから、主要な公共公益施設やスーパー・マーケット、コンビニなどの商業施設に加え、郵便局、公民館など、日常生活に必要な機能が集積しており、**生活利便性が高い**。
- ・小牧駅から半径1km、バスの停留所から半径500mの範囲にあり、**交通利便性が高い**。
- ・新病院の診察開始(2019年上半期予定)
⇒全国でもトップレベルの**自治体病院**として活動し、過去に全国自治体病院協議会から自治体優良病院表彰を受ける。
⇒「救急医療」、「がん診療」、「高次医療」を3本柱とした医療機能の拡充を図る。
- ・商業ビル(再開発ビル「ラピオ」)内に子育て支援施設を整備し、**出産後も働き続ける女性、共働き夫婦をサポート**。
⇒第6次小牧市総合計画新基本計画において、「子育てしやすいまち」を柱の1つに掲げ、**誰もが安心して子育てができる体制を整える**。
(※乳幼児の一時預かり施設、児童センター、子育て支援センターを整備予定)
- ・魅力的な新市立図書館をつくり、市内外からこの地区を訪れる人を増やし、地域の活性化、中心市街地の賑わいの創出に繋げる。

◆約20年後のまちの姿◆

- ・「小牧の顔」にふさわしい、歩いて楽しい魅力あふれる中心市街地
 - ・鉄道駅周辺を中心に日常生活に必要な機能が集約した、より暮らしやすいまち
 - ・自転車や歩行、公共交通を重視した自動車に頼らない暮らしのまち
 - ・小牧の自然や歴史を大切にし、誇りの持てるまちなみ、安全・安心なまち
- ◎誰もが暮らしやすい生活環境の実現に向け、地域コミュニティの維持・活性化を図るため、子育て世代や単身者を中心とした、若年世代を対象に定住促進を進める！！

小牧駅周辺地区の概要図



【子育て支援施設の整備】都市機能誘導施設

・子どもたちに安全・安心で健全な遊びを提供し、子どもの健康増進や情操を豊かにする環境を整える。
・出産後も働き続ける女性、共働き夫婦をサポートするため、乳幼児の一時預かりを有する保育施設や子育て世代同士の交流を目的としたサークル活動室等の整備を計画している。



【小牧市立図書館整備】都市機能誘導施設

【小牧市立図書館整備】都市機能誘導施設

・現在、イベント広場や市営駐車場となっている街区に中心市街地の賑わいを創出することなどを目的に小牧市立図書館の移転を計画している。
(写真は現計画の図書館建設予定地)

※平成27年10月4日に実施された「現在の新図書館建設計画に関する住民投票」の結果を受け、「新小牧市立図書館審議会」を設置し、建設予定地を含めて審議中。



【小牧市民病院整備】都市機能誘導施設

・老朽化・狭隘化による医療機能の制約等を解決するため、「救急医療」「がん診療」「高次医療」を3本柱とした医療機能の拡充を図る。



【中心市街地にぎわい創出事業】

・中心市街地の活性化を図るために、地元商店街・市民団体等からなる「小牧にぎわい隊」が城見市やチャリティライブを定期的に開催し、にぎわいを創出している。



【名鉄小牧駅周辺】

・駅周辺の利用実態及び将来の施設需要を把握し、小牧駅前広場の施設の規模・配置の検討を行い、再整備を図ることにより駅利用者の利便性を向上させ、中心市街地の魅力を高め、賑わいを創出する。

